

行政視察報告

【大阪府箕面市】

視察内容 「学校における先端技術活用事業について」

(1) 箕面市における情報教育の歩み

- ・平成22年度より総務省事業「フューチャースクール事業」を活用し、パイロット小学校の全児童にタブレット PC を配置し、取り組みを実施した。
- ・平成23年度、文部科学省「学びのイノベーション事業」で萱野小学校を実証校として実証研究をおこなった。
- ・平成30年度は全小学校の 4～6 年生を対象に一人一台タブレット端末を配備した。
- ・令和元年度、文部科学省事業「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業」を受託。市内4校にて実証を開始した、実証校にはデジタルドリルを導入し、タブレットの持ち帰り活用を施行実施した。
- ・令和2年度、GIGA スクール構想予算を活用して、小中学校全児童(約1万 2,500 人)に一人一台のタブレットを配備した。
- ・令和3年度、文部科学省事業「学びにおける先端技術の効果的な活用に関する実証事業」を継続して受託した。学習支援ソフト・デジタル連絡帳システム「トモリンクスtomoLinks」を導入した。

- ・令和4年度、文部科学省事業「次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進事業を継続して受託した。

- ・令和5年度、デジタル庁事業「令和5年度教育関連データ連係の実現に向けた実証調査研究」を受託した。

- ・令和6年度、文部科学省事業「次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進事業(最先端技術及び教育データ利活用に関する実証事業)」を受託した。

(2) 箕面子どもステップアップ調査を実施

平成24年度から小学1年生～中学3年生まで全9学年で、毎年子どもたち一人ひとりの状況を全方面(学力・体力・生活)について調査・把握を行い、支援の効果を「学力」や「生活状況」の定量的な変化で客観的に測ることが出来る調査を実施している。

(3)教室でのビデオカメラ撮影による授業診断

可動式カメラを教室に設置して、授業を撮影する。撮影データは、後日分析解析を処理して、児童の発話比率や挙手人数、下向き率等の分析をアウトプットする。

■視察を終えて

オンライン学習や AI 分析、授業中の教員、生徒の行動解析などを行うことで、個人の特性に合わせた学びにつなげる取り組みに非常に関心を

持っており、本市の課題である教員の ICT 活用における指導力の向上を図るためにとても参考になりました。